

池田町とペンティクトン

研修旅行での出会い

小松 厚

私たち池田町商工会青年部が第二回海外研修のため、姉妹都市のBC州ペンティクトンを訪問したのは昨年の一月であった。

CP機で成田を飛び立った一行十四名は、機内でカナダ観光局職員の歓迎を受け、早くも姉妹提携の感激を味わったのだが、バンクーバーに到着したときは悪天候、乗り換えのペンティクトン市行き飛行機がフライトできないというアクシデントに会った。

ようやくのことでバスをチャーターして五時間半後、夕闇迫まるペンティクトンにたどり着いた。後で聞いた話によると、この時期は飛行機の欠航が多いので、最初からバスをチャーターした方が良いとのこと。初体験の北方圏の自然の厳しさと共に、予定には無かったロッキーマウンテンの美しさを車窓から見る事ができたのは、不幸中の幸いだっただけでなく、青年会議所(JC)役員の出迎えを受けたわれわれ

は、ホテルで荷を解く間もなく、ウェルカムパーティーと急ぐ。会場いっぱいJCメンバーとお互いに自己紹介、記念品の交換、通訳を交えての対話、会食後はアイスホッケーの観戦、さらにはホテルに戻ってからも交流がつづいた。JCメンバーの気取りのない対応、姉妹都市として同じ世代の想いがわれわれの緊張感を解きほぐしてくれた。

通訳は池田町出身の村崎君がやってくれた。高校生のとき交換留学生としてペンティクトンへ派遣された村崎君は、カナダがすっかり気に入って、そのままビクトリア大学へ進んだ青年である。私もカナダの大きさ、人々の暖かさに魅されて、「もっと若かったらここに住みたい」と思ったほどである。それにしても、通訳として活躍する村崎君を見ると、姉妹交流も根づいてきたな、という感を深くした。

二日目は、市内見学をさせてもらう。一行が一行だけに、皆さん商売熱心。JCの方々の案内で、業種別に会社や商店を訪ねて回った。中には趣味の切手を見て、郵便局へ行く者もいる。菓子業をやっている私は、その関連のところを案内してもらった。ペンティクトンはビー

チなどお菓子の材料としていいものが豊富にあるので、将来は輸入も考えられる、というのが私の感想である。

ところでこの市内見学の途中、私は初体験の事件(?)にぶつかった。ある商店を訪れた私たちに、店主が防犯通報装置を実際に作動して見せてくれたのはいいが、当然のことながらパトカーが到着、拳銃を構えた警官が入ってきたのである。本物である!! 店主が事情を話したがなかなか許してくれず、ようやくのことでお引き取りいただいた。

観光の町としてのペンティクトンにはファミリードライバーたちの宿泊施設がいたるところに見受けられ、観光客が多数訪れていた。緑あふれる季節にはさらに賑わいをみせるであろう。

二日間の短い滞在ではあったが、池田を訪れたことのある顔なじみの市民に再



ペンティクトンの市庁を訪れた池田町商工会青年部の一行

会したり、新しい友人も得た。多くの人々の暖かい心に触れ、人間同士に国境は無いとの実感が今も心の中に残る姉妹都市への訪問であった。この十月にはペンティクトンよりまた、四十人の親善団が池田にやって来る。ますます大きくなる交流の輪、今から楽しみにしている。

(池田町商工会青年部部长)

ペンティクトン市は、バンクーバーの東方四百キロにあり、この六月、市制七十五周年を迎えた。人口二万一千人。面積は三千五百七十ヘクタール。

気温は最低でマイナス二十五度、最高では四十度を記録したこともあるが、雨量が少なく過ごしやすい。農業(果樹)、林業が盛んで、ワイン工場のほか木材の二次加工業が多い。オカナガン湖を代表とする自然の景観やゲームファーム(自然動物園)にさそわれて訪れる観光客も多く、日本人の姿も最近とみに増えている。

池田町が一九七七年に姉妹提携したのは、農・林業の産業構造が似ているというのが大きな理由であった。提携以来、親善団や高校生を派遣交流し、また池田町では、バグパイブやカーリング等の受け入れも行なっている。